

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第5号（通算 99号）
令和4年9月28日
三条市教育委員会
教育センター 発行



「まちやま理科学習」開始！
9月は6年生が「てこのしくみ
とはたらき」を学びます。

青年期までにつけたい力

学校教育課 指導主事 新保 英穂

今年度の三南特別支援教育推進地区協議会連携事業である三条市特別支援教育研究協議会研修兼発達応援セミナーの録画を視聴しました。講師は、国立特別支援教育総合研究所の笹森洋樹様です。笹森先生の所属・職名は、発達障害教育推進センター・上席総括研究員（兼）センター長です。

この講演の受講者は最終的に300名を超えましたので、視聴された方も多いと思います。講演の中で、私の印象に残ったことについて紹介します。

特別支援教育の目標は、「(前略)生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」ということを踏まえた上で、笹森先生は、青年期までにつけたい力として、まず「ストレスへの対処」を挙げ、「援助要求」をこれよりも更に重要だと説明されました。

「援助要求の力」はすべての児童生徒にとって重要な力ではないでしょうか。

目の前の児童生徒が、困ったときに自分から助けを求められるか、ストレスに対処できるか、を重要な力ととらえ、他の項目も心に置いて児童生徒の成長を支えていきたいと思いました。

青年期までにつけたい力

ストレスへの対処
否定的な思考を肯定的思考へ
コミュニケーション能力
学び合い、支え合い
気持ち・感情のメタ認知
トライアル&エラー

そしてなによりも困ったときに相談できること、相談して良かったと思わなければ相談はしない。

わくわく科学フェスティバル 8月18日(木) 会場：体育文化会館

わくわく科学フェスティバルは、三条市の子どもたちに、自然の不思議にふれたり、科学の実験や工作を行ったりする場を提供し、自然事象や科学現象、科学技術に対して、興味・関心と探究心を高める機会とすることをねらいとしています。

三条市科学教育推進事業実行委員会が行う四事業（わくわく科学フェスティバル、科学・模型工作教室、科学教室、科学ゼミナール）の一つであり、大きな行事です。

過去 16 回開催してきたわくわく科学フェスティバルですが、一昨年は中止、昨年は、実施方法を変えたり、規模を大幅に縮小したりして三条市立大学で実施しました。

今年度は、三条市体育文化会館で、小学生のみを対象に、フェスティバルの計

画を立て、関係団体に参加の依頼をしました。その結果、15 団体から参加の申し出があり、当日は 17 の内容で、小学生を対象にした、「投げたらもどってくるブーメランを作ろう」「パスタタワーの高さを競おう」「カラフルなスーパーボールを作ろう」など、興味をそそる観察、実験、工作の場を提供していただきました。

当日、児童、保護者約 400 人、出展や支援者関係を含め、約 500 人参加のフェスティバルとなりました。児童の感想は、「難しいものもあったけれど、楽しかった。来年も参加したい。」という内容がほとんどであり、とても活動を楽しんでいたことが伺われました。



防災教育講演会 8月22日（月）実施

8月22日（月）、栄庁舎をメイン会場に、三条市立学校教職員を対象に、防災教育講演会をオンラインで開催しました。今年度から、防災教育授業の公開と講演会を別々に開催することとしました。また、学校からもオンライン視聴をしてもらいました。

三条市防災対策総合アドバイザーを務める、東京大学大学院情報学環特任教授の片田敏孝様から「これからの時代に求められる学校防災教育」という演題で御講演をいただきました。

気候変動による豪雨の多発や台風の凶暴化といった大きな変化に伴い、行政と住民とが一体となって自然災害に立ち向かい、自らの判断で避難行動をとることが重要であるというお話がありました。また、行政が守り、住民が守られるという関係ではなく、地域社会の皆で自然災害に立ち向かうという「主客未分」という考えが重要であること、家族や地域における命のつながり、思い合う心が防災の実効性の鍵であるということをお話や映像から学ぶことができました。そして、「対策よりも姿勢が重要である、対策ではなく思想を創ることが重要である」というまとめをいただきました。



参会者からは、「大人も子どもも自分で考えて行動できる力や姿勢を大切にしたい」「防災教育は、心の教育につながっているということが非常によく分かりました」などの感想があり、防災教育に対する認識を深める機会となりました。

今後、各校で行われる防災授業において、地域皆で助かることができるように、命のつながりや思い合う心を大切に命の教育が行われ、「育みの環境」で防災教育が進められることを期待しています。



特別支援教育 「関係機関との連携研修」 8月8日（月）実施

支援を要する子どもたちと関係する機関との連携について、子育て支援課職員を講師として研修を実施しました。子どもたちが放課後や長期休業中に利用する「放課後等デイサービス」や福祉サービス、三条市独自の「子ども・若者総合サポートシステム」の概要や中学校卒業後のサポートなどについて学ぶ機会になりました。

後半は、栄庁舎3階にある子ども発達ルーム（児童発達支援事業）の施設を実際に見学しながら、就学前の子どもたちを対象とした指導内容や教材等について研修しました。小学校入学に備えて、傘をさしてランドセルを背負って歩く練習や、落ち着いて先生の指示を聞いてから行動する練習をしている様子などについて、デモンストレーションを交えて説明を受けました。発音などの言葉に課題のある子どもの指導の流れやアセスメント用の検査器具、手作りの教材等についてもたくさんの紹介がありました。参加者は、「学校でも使えそうだ」と話しながら、熱心に説明を聞いたり、教材について質問をしたりしていました。



Q-U研修

第1回：5月25日（水）開催

第2回：8月3日（水）開催

（会場：教育センターホール）

【講座開設の願い】

小中一貫教育9年間のスパンでの見取りを徹底し、要支援群の児童生徒に至急の対応策を実施および学級満足度等の分析による学級経営の改善に生かすことを期待するもの

本研修は新潟大学教職大学院准教授 田村和弘 様 を講師に迎え開催しました。市内ほぼ全ての学校から参加いただき、いずれも盛会となりましたことに感謝いたします。ここでは、特に第2回Q-U研修の様子をお伝えします。



第2回は「Q-Uのデータを活用した人間関係づくりの方法の実際」と題して講義や演習を行いました。「配慮のスキル」と「かかわりのスキル」を中心に、2学期始めに取り組むことのできる具体的な内容でした。その中で、親和型学級を目指すために大切なこととして、活動の意味付けをすることやプラスのフィードバックで強化すること、活動後のシェアリングについて強調されていました。

適宜、参加者からの質疑応答の機会があり、受講者が抱える悩みに対し、的確な助言をいただきました。

また、学級ソーシャルスキル（CSS）や構成的グループエンカウンター（SGE）の活動事例の体験を通して、受講者からは次の感想が寄せられました。

満足度の高い研修となったことが伺えます。

受講者の感想（一部抜粋）

普段の様子と違ったQ-Uの結果に驚いていたところです。子どもたちが安心して過ごせる学級、学校になるように、今回の研修を職員で共有し、活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

理論だけでなく具体的な実践もたくさん紹介してくださり、大変勉強になりました。2学期からの学級集団作りに活かしていきたいと強く思いました。もし可能であれば年間を通してどのように学級集団づくりを進めていくかについて（Q-Uを活用した）内容もぜひ教えていただきたいです。